

令和8年度、建設業労働災害防止協会群馬県支部の総会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。昨年度の建災防の活動、通常通りの活動を行うことが出来ました。今日の総会も、理事、代議員の方はもちろんですが、来賓として群馬労働局から小島労働基準部長さんをはじめ、大石監督課長さん、鈴木健康安全課長さん、そして県内全域の監督署長さん方、全員ご臨席のもと、こうして開催できますこと、先ずもって厚く御礼申し上げます。

昨年度は厚生労働省による第11次建設雇用改善計画の改正の年でした。4月1日に計画が発表されましたが、昨年5月から今年の1月まで計7回の委員会が開催されました。若年者への魅力発信から、入職・定着促進など、幅広く担い手の確保育成が語られました。群馬からも専門委員が出席していましたが、発言してきた内容がいくつか記述されています。デジタル人材の育成の視点として、「効率化だけでないやりがいにつながるアプローチが大事だ」ということ、「単なる出欠席の履歴にキャリアアップ制度がなっていること」などですが、建設業なりの「変形労働時間制の導入の仕組み」が見送られた点、気になるところです。

ところで、令和7年1年間の労働災害の発生状況ですが、1月から12月までのデータがあります。群馬県全体の建設業関連では186件、死亡災害は0件となっています。死亡災害ゼロの県は全国で4県だけでした。産業全体の労働災害も業界同様、減少傾向となっています。労働災害をストップさせ、こうして継続させていくには、安全パトロールや朝礼・KY活動や「声掛け」といった地道な「安全活動の原点」に返ることです。そして万が一に発生してしまった事故でも対策をしていた結果とそうでないケースは大きく変わってきてしまいます。それぞれの分会を通して、安全に対する注意喚起をきめ細かく続けていくことをよろしくお願いいたします。

建災防の活動、結果として幅広く研修実績が残せた年度であったと思っています。事務局体制も充実した体制になってきています。建災防分会ごとのパトロールや安全大会、そして安全対策の啓発チラシなど細かく配布していくことによって安全対策のレベルを引き上げていこうと思っています。今後、本格的な工事の混み合った時期に向かっていきます。熱中症対策も気になるところです。安全への思いをしっかりと確認しあい、新年度、「どんな事故も起こさない」という強い決意で望むことを期待し、また今日の総会は、事業報告、ならびに決算予算等であります。慎重審議とスムーズな会議の進行をお願いして挨拶に代えます。